**被爆した路面電車**

1945年8月6日、広島に原爆が投下された時、市の123台の路面電車のうち108台は破壊されました。残った車輌のうちの何台かは、たった3日後にはまた走行をはじめました。この事は地元住民にとっても広電にとっても大きな誇りです。原爆で損傷した車輌のうち2台は今でも使用されています。651形と652形で、第二次世界大戦中の1942年に作られたものです。

戦争の遺産となったこの2台の路面電車は、当時は広島では一番大きく新しい車輌で、車体はより長くより大勢の乗客を載せることができ、床はゆるやかなスロープになっていて通勤客を素早く載せることができるものでした。2台の路面電車は、原爆が落とされた朝の時間帯に走行していて、651形は爆心地からほんの1kmのところにいました。木でできた内装は燃えてしまいましたが、無垢の鋼鉄製の車体だったためか、車輌は完全な状態で残りました。戦後、両車輌とも修復されて運行に戻されました。

以来、2台の車輌は、非接触トラベルカードに対応したり、エアコンが付いたりといったアップグレードはされてきましたが、シャシーはオリジナルのままです。運転席には新しいテクノロジーは全く追加されておらず、路面電車は今も全面的に手動で制御されていて、ボタンやスクリーンではなくホイールとレバーで運転されています。これらの路面電車に乗るのは、まるで昔に戻る時間旅行のようです。実際に広電は、広島の歴史を保存するために、少なくとも2台のうち1台は可能な限り走らせていくことをポリシーとしています。

残念ながら、651形と652形はその古さのため、常に利用できる状況ではありません。しかし、広島のより新しい路面電車は、すべての乗客に対応できるようにデザインされています。